

CentreNET® AT-View/X-HPOV-45
Ver. 1.5 pl. 0

リリースノート

Copyright©アライドテレシス株式会社

目次

1. はじめに	3
2. 動作条件	3
3. インストール手順	4
4. アンインストール手順	10
5. AT-View の起動	12
6. オンラインマニュアル (HTML) の見方	15
7. 使用上の注意点	16
8. おことわり	23
9. ユーザーサポート	24
10. 調査依頼のご記入にあたって	25

1.はじめに

この文書は、CentreNET AT-View/X-HPOV-45(以降 AT-View)のインストール方法、起動方法、注意点などについて説明するものです。

2.動作条件

AT-View をインストールするには、以下の条件が満たされていることが必要です。

- ・ 30MB の空き容量のあるハードディスクドライブ
- ・ CD-ROM ドライブ
- ・ 日本語 HP-UX version 10.10, 10.20
- ・ 日本語 HP OpenView version 4.01, 4.11, 5.0
- ・ root の権限
- ・ 言語が SJIS (\$LANG = ja_JP.SJIS) であること

AT-View が動作するためには以下の条件が必要です。

- ・ プラットホームのバージョン：上記と同じ
- ・ 2MB + 開くパネル数 × 0.5MB 以上の空きメモリ(スワップサイズ)(注¹)
- ・ 下記の管理対象機器と SNMP で通信できること(注：物理的に接続されている以外に、管理対象機器の設定が必要です。 7章参照)

Ver1.5pl.0 での管理対象機器および、必要なファームウェア・バージョンは README.TXT に記載されていますので、ご使用前にご確認ください(ファームウェアのバージョンが下記より古いと、正しく MIB 情報を表示・設定できない場合があります)。

(注¹) HP OpenView が動作するためのメモリ量は含みません。

3.インストール手順

CD-ROM をマウントする

AT-View をインストールする前に、該当のワークステーションに root としてログインします。次に AT-View の CD-ROM をマウントします。(注²)

- (1)AT-View をインストールするワークステーションに root としてログインしてください。インストールする場合は、言語が SJIS (\$LANG = ja_JP.SJIS) であることが必要です。言語の切り替え方法については HP-UX のマニュアルなどをご覧ください。
- (2)AT-View の CD-ROM を CD-ROM ドライブに挿入してください。
- (3)ワークステーションで以下のコマンドを実行してください。 *device_filename*、*directory_name* には各システムに適した名称を入力してください。

```
mount  device_filename  directory_name
```

たとえば下記のようになります。

```
mount  /dev/dsk/c0t2d0  /cdrom
```

AT-View をインストールする

CD-ROM をマウントした後、インストールを開始します。

- (1)すでに HP OpenView が起動されている場合は、HP OpenView を終了してください。

リリースモジュールを置くための一時ディレクトリを作成し、そのディレクトリに移動してください。

```
mkdir /usr/atv-temp  
cd /usr/atv-temp
```

(注²) ここでの手順は、HP-UX および HP OpenView のインストールが正常に終了し、かつ正常に動作していることを前提としています。

- (2)ワークステーションで以下のコマンドを実行してください。device_filename, directory_name には各システムに適した名称を入力してください。

```
tar xvf directory_name/ATVIEWX.TAR
```

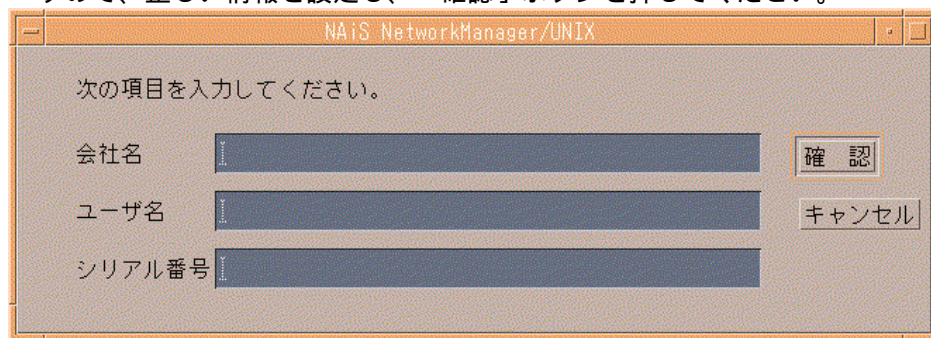
例えば下記のようになります。

```
tar xvf /cdrom/ ATVIEWX.TAR
```

- (3)以下のコマンドを入力してインストール・プログラムを起動してください。

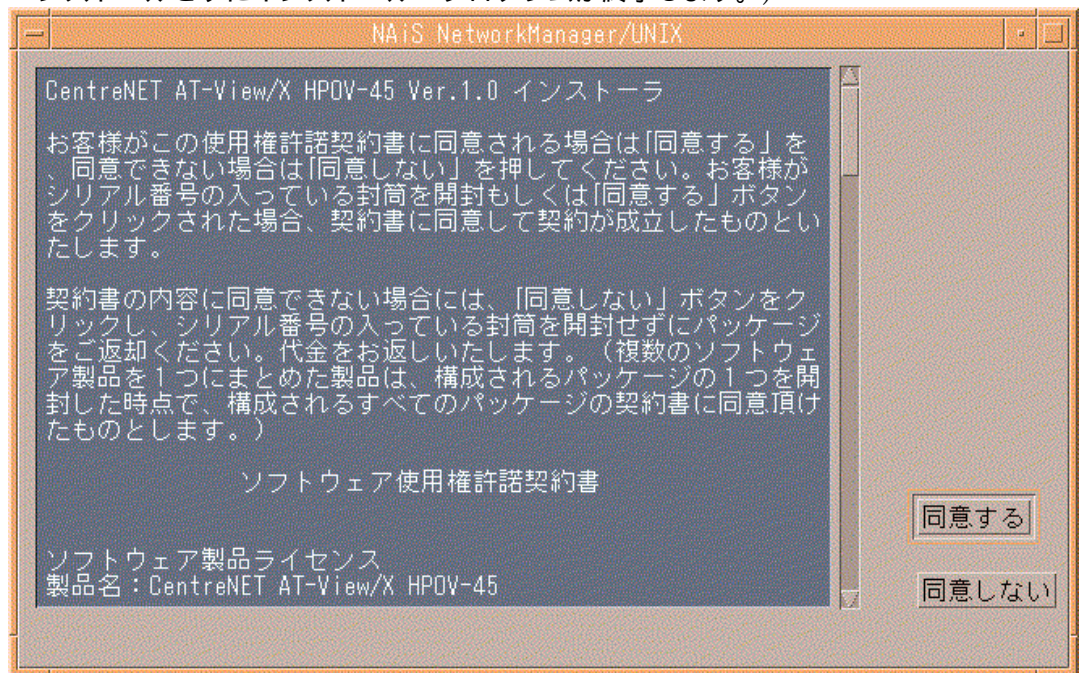
```
./install
```

- (4)以下の図のように会社名、ユーザー名、シリアル番号を入力する画面が現れますので、正しい情報を設定し、「確認」ボタンを押してください。

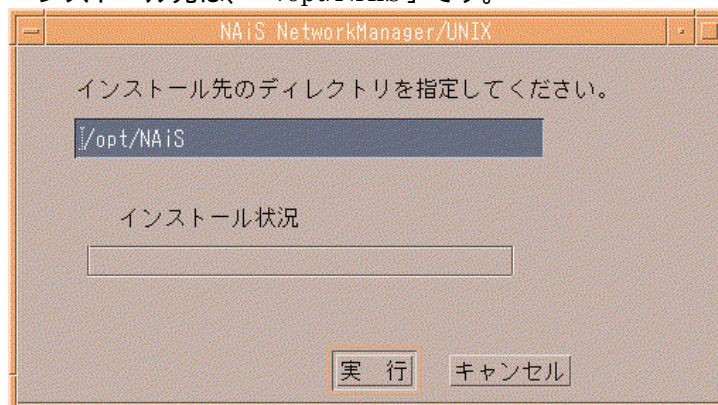


「シリアル番号」テキストボックスには、パッケージに同梱されている「シリアル番号/認証キーシール」の下側の数字（数字 9 桁 + 16 進数 4 桁）を入力します。

- (5)次に下図のようなソフトウェア使用権許諾文が表示されますので、同意する場合は「同意する」ボタンを押してください。（「同意しない」ボタンを押すとインストールせずにインストール・プログラムが終了します。）



- (6)次に下図のようにインストール先を指定する画面が表示されますので、適切なインストール先を入力し、「実行」ボタンを押してください。デフォルトのインストール先は、「/opt/NAiS」です。



- (7)インストール状況がバーグラフで表示されます。しばらくして必要なファイルのコピーが終了すると、画面上に「インストール状況 95%終了」と表示されます。

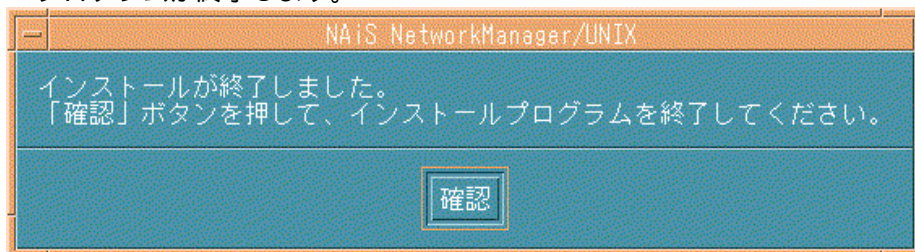
(8)次に、ターミナル画面(./install を入力した画面)に以下のようなメッセージが表示されます。これにより、HP OpenView の oid_to_type ファイルに AT-View の管理機器の情報を追加し、HP OpenView のマップ上で AT-View の管理機器アイコンを適切に表示するようにします (注3)。情報を追加して良い場合は「y」を、そうでない場合は「n」を入力します。

```
This script will perform the following steps to integrate
AT-View/X with HP OpenView:

1. ovstop
2. Comment original sysObjectID to vender info,
   if it is already in /etc/opt/OV/share/conf/oid_to_type.
3. Adds new agent sysObjectID to vendor information.
   (If the sysObjectID already exist, makes it comment.)
4. Make backup file of /etc/opt/OV/share/conf/oid_to_type as
   'oid_to_type.<install date>', if AT-View/X edited.
5. Reorganizes the mapping of HP OpenView
6. ovstart

Do you wish to perform this integration? [y | n]
```

(9)HP OpenView 再構築のメッセージが表示された後、インストールが完了すると以下のような画面が表示されます。「確認」ボタンを押すと、インストールプログラムが終了します。



(注3) 管理機器のアイコンが、HP OpenView のマップ上に適切に表示されるまでに時間がかかる場合があります。

追加モジュールをインストールする

CD-ROM からのインストール後、AT-View の管理対象・機能を追加するための追加モジュールのインストールをします。

(1)AT-View/X V1.0pl.0 のインストールされているマシンに当社 WEB ページから、追加モジュールをダウンロードしてください。

URL は、<http://www1.allied-telesis.co.jp/sw/atviewx/> です。

(2)ターミナル上で、以下のコマンドを実行します。

- ・圧縮解除(以下の例では、/tmp にモジュールがダウンロードされているものとします。)

```
cd /tmp
uncompress atviewx.tar.Z
```

- ・ファイルを展開(以下の例では、/tmp/atview/にファイルを展開するものとします。)

```
mkdir /tmp/atview
cd /tmp/atview
tar xvf /tmp/atviewx.tar
```

(3)AT-View を展開したディレクトリ(上記では /tmp/atviewx)で以下の install コマンド(シェルスクリプト)を実行します。

```
./install
```

(4)以下に示すいくつかの問い合わせ(質問)に回答すると、インストールが終了します。インストールが終了後、HP OpenView を起動します。

- ・install コマンドを実行すると順に以下のような問い合わせがあります。

Install AT-View/X-HPOV-45 additional modules now [y]?

追加モジュールをインストールしたくないときは、ここで「n」と回答します。それ以外は、「y」もしくは Enter キーを入力します。

AT-View/X is installed in /opt/NAiS. Is it OK [y]?

V1.0pl.0 をインストール時にデフォルトディレクトリにインストールしている場合、上記の問い合わせがあります。正しい場合は、「y」もしくは Enter キーを入力します。

Type the path or press <Enter>:

デフォルト以外に V1.0pl.0 がインストールされている場合、または上記で「n」を入力した場合の問い合わせです。V1.0pl.0 のインストールディレクトリのパスを入力します。Enter キーのみを入力した場合、install コマンドは、AT-View/X のインストールされているパスを検索します。(検索には時間を要します。)

Do you wish to perform this integration [y]?

HP OpenView/NNM にベンダー情報等を追加します。追加をするために install コマンドは、HP OpenView のファイルを変更します。追加して良い場合は、「y」もしくは Enter キーを入力します。

Do you want the installation scripts and files deleted [y]?

ディスク容量を確保するため等、インストールに必要なファイルを削除して良い場合は「y」もしくは Enter キーを入力します。その場合再度インストールする際には、上記手順 (2) または (1) から、やり直す必要があります。

4. アンインストール手順

追加モジュールを展開する

AT-View をアンインストール(削除)する前に、該当のワークステーションに root としてログインします。次に AT-View の追加モジュールを展開します。(アンインストールするには、AT-View がすでにインストールされていることが前提です。)

既に追加モジュールを展開している場合は、「AT-View をアンインストールする」から実行してください。

- (1) 当社 WEB ページから、追加モジュールをダウンロードしてください。
URL は、<http://www1.allied-telesis.co.jp/sw/atviewx/> です。
- (2) ターミナル上で、以下のコマンドを実行します。
 - ・ 圧縮解除(以下の例では、/tmp にモジュールがダウンロードされているものとします。)

```
cd /tmp
uncompress atviewx.tar.Z
```

- ・ ファイルを展開(以下の例では、/tmp/atview/にファイルを展開するものとします。)

```
mkdir /tmp/atview
cd /tmp/atview
tar xvf /tmp/atviewx.tar
```

AT-View をアンインストールする (注⁴)

追加モジュールを展開した後、アンインストールを開始します。

- (1) AT-View を展開したディレクトリ(上記では /tmp/atviewx)で以下の `uninstall` コマンド(シェルスクリプト)を実行します。

```
cd /tmp/atviewx/uninstall
./uninstall
```

(注⁴) 追加モジュールのみをアンインストールことはできません。アンインストールは、AT-View/X の全モジュールをアンインストールすることになります。また、アンインストールは V1.0pl.0 に付属のアンインストールコマンドを使用せず、上記手順で行ってください。

- (2) ターミナル画面(/.uninstall を入力した画面)に以下のようなメッセージが表示されます。アンインストールを実行する場合は「y」を、そうでない場合は「n」を入力します。

CentreNET AT-View/X アンインストーラ

CentreNET AT-View/X をアンインストールします。
よろしいですか? [y|n]

- (3) アンインストール（ここでは、AT-View の関連ファイルの削除）が始まると、画面に「アンインストール実行中」と表示されます。(注⁵)
次に、ターミナル画面に以下のようなメッセージが表示されます。これにより、HP OpenView の oid_to_type ファイルに AT-View の管理機器の情報を削除(コメント化)します。情報を削除して良い場合は「y」を、そうでない場合は「n」を入力します。いくつかのメッセージが表示され、アンインストール・プログラムが終了します。

This script will perform the following steps to recover
information of HP OpenView:

1. Uncomment original sysObjectID to vender info, if exist.
2. Comment the added sysObjectID to vender info.
3. Make backup file of /etc/opt/OV/share/conf/oid_to_type as
'oid_to_type.<uninstall date>', if AT-View/X edited.
3. ovstop netmon
4. ovstart netmon

Do you wish to perform this recovery? [y|n]

(注⁵) アンインストールすべきファイルが検索できない場合、「アンインストールに失敗しました。」というメッセージが表示され、アンインストールプログラムが終了します。

5. AT-View の起動

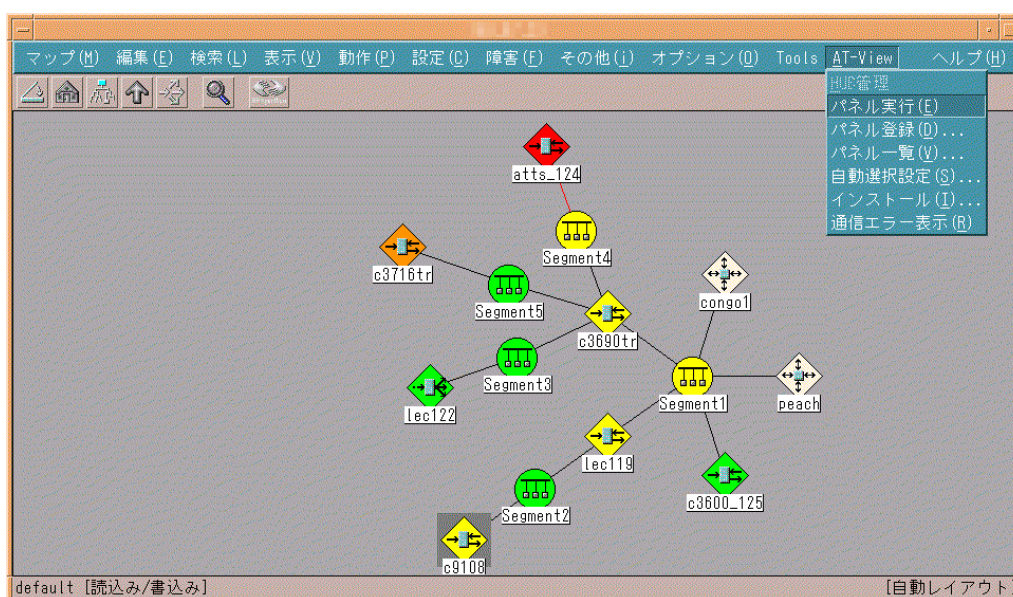
AT-View は、以下の操作により、HP OpenView の「AT-View」メニューから起動することができます。

() 自動実行

AT-View でサポートする機器(「2.動作条件」参照)は、通常以下の手順で起動します。(注⁶)

(1)管理する機器のアイコン(1つ)を一度左クリック(アイコンが反転する)します。

(2)「AT-View」メニューから「パネル実行」を選択します。



() 登録実行

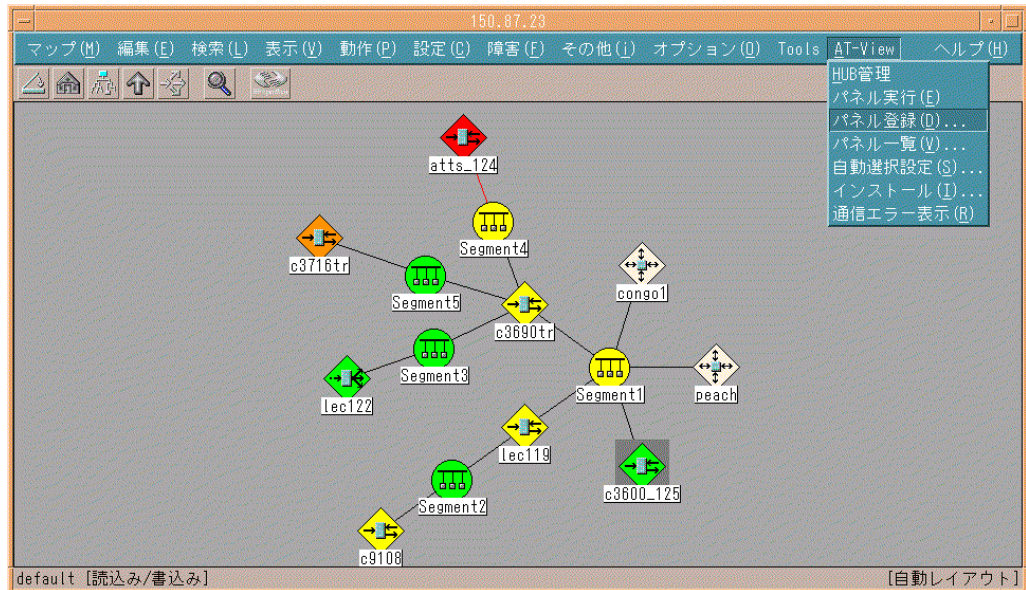
以下の手順で、アイコンに対応するパネルを登録し、そのパネルを起動します。

(1)管理する機器のアイコンを一度左クリック(アイコンが反転する)(注⁷)します。

(2)「AT-View」メニューから「パネル登録」を選択します。

(注⁶)当手順でうまく行かない場合は、「7.使用上の注意(3)～(5)」をご参照ください。

(注⁷)アイコンは複数(最大 100 個)選択可能。



(3)パネル登録画面(下図)で、ホスト名、IP Address、Community 名、Set Community 名を確認します。(注⁸)

(4)次にパネルを設定します。「参照」ボタンを押すと、管理する機器のパネル(ファイル)を選択する画面が表示されるので、対象となるディレクトリ・ファイルを選択してください。

対象となるディレクトリは、<インストールディレクトリ>/dialog/(注⁹)で、機器毎のファイル名は以下の通りです。また、追加分は追加モジュールの中に含まれる README.TXT に記述されています。追加モジュールのダウンロード・展開については「3.インストール手順」をご参照願います。

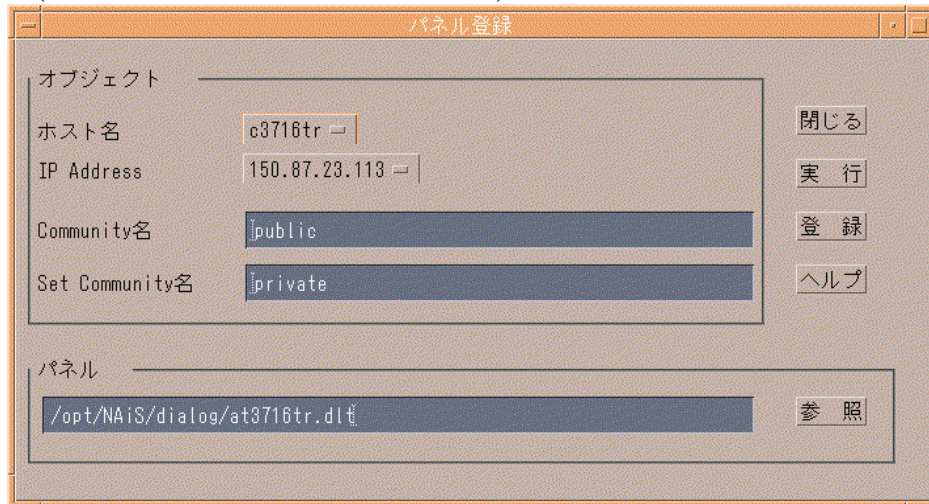
- CentreCOM 3716TR : at3716tr.dlt
- CentreCOM 3716TRplus : at3716tp.dlt
- CentreCOM 3690TR : at3690tr.dlt
- CentreCOM 8116 : at8116.dlt
- CentreCOM 3600 シリーズ: at36hub.dlt
- AT-TS HUB シリーズ: attshub.dlt
- CentreCOM FH612TX シリーズ: atfh612.dlt
- CentreCOM 8518SX/LX : at8518.dlt
- CentreCOM 9108SX/LX : at9108.dlt
- CentreCOM RH609 : atrh609.dlt

(注⁸) 複数の機器アイコンを選択した場合、ホスト名、IP Address をコンボボックスで変更してから、Community、パネルの設定を行ってください。

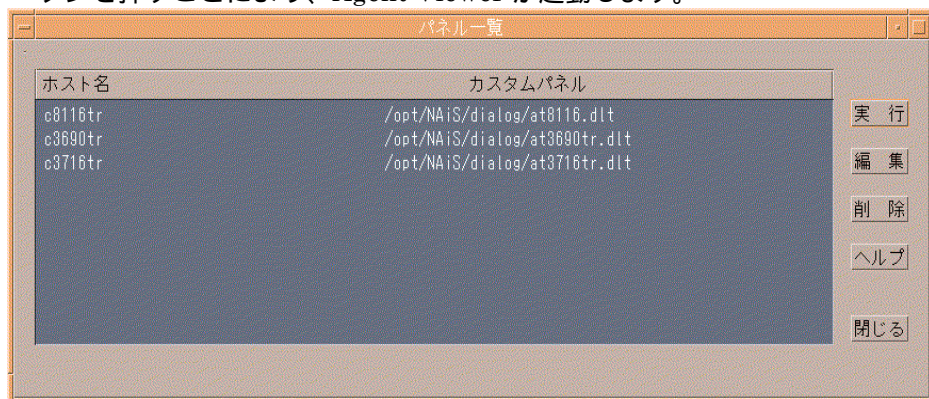
(注⁹)インストール先がデフォルトの場合、/opt/NAiS/dialog

パネルを登録した後、「実行」ボタンを押すと機器の管理をする Agent Viewer が起動します。また、「登録」ボタンを押すと、(5)に示す「パネル一覧」に登録することができます。

(図は、CentreCOM 3716TR の登録例)



(5) 「パネル一覧」に登録すると、「AT-View」メニューの「パネル一覧」で、下図のような一覧が表示されます。管理対象となる機器を選択し、「実行」ボタンを押すことにより、Agent Viewer が起動します。



また、「パネル一覧」に登録された機器は、「パネル一覧」を表示させなくても、HP OpenView 上の該当アイコンを反転させ、「AT-View」メニューから「パネル実行」を選択することでも Agent Viewer を起動することができます。

Agent Viewer の使用方法については、オンラインマニュアルをご覧ください。

6. オンラインマニュアル (HTML) の見方

本製品のマニュアルは、弊社の Web サイトで公開されています。Web ブラウザで以下の URL にアクセスしてください。

<http://www1.allied-telesis.co.jp/sw/atviewx/manual.html>

7.使用上の注意点

- (1) AT-View を使用するためには、管理対象となる機器に IP アドレスとサブネットマスクが設定されていることが必要です。
- (2) 各機器固有の注意点については、オンライン・マニュアルをご覧ください。
- (3) エラーメッセージについて
メッセージとそれに対する想定される原因・対処を以下に示します。

< 通信(SNMP)エラー >

以下の通信エラーは、AT-View メニューの「通信エラー表示」を選択し、通信エラー・パネルを開くことにより確認できます。(注¹⁰)

(a) 「Time out」

- ・意味： エージェント(管理機器)からの応答がない。
- ・原因： 機器の応答が遅れた。
SNMP コミュニティ名に誤りがある。
機器の電源が OFF になった。
- ・対処： パネル上の「Refresh」ボタンを押す。
HP Open View の「SNMP 設定」(注¹¹)にて、コミュニティ名、Set 用コミュニティ名をチェックする。機器のコミュニティ名をチェックする。
機器の電源および機器との通信が正常かチェックする。

(b) 「No such Name」

- ・意味： 対象となる MIB オブジェクトがない。
- ・原因： リストボックス形式の MIB 一覧において、ダブルクリックにより特定の(例えばポート毎の)MIB 情報を取得しに行ったとき、該当する MIB 情報がない。(7.使用上の注意点(13)参照)
該当する MIB 情報が削除された。
機器に該当する MIB 情報が実装されていない。
- ・対処： ダブルクリックする、MIB を確認する。(7.使用上の注意点(13)参照)
telnet やコンソールによる操作などで、該当する情報が削除されていないか確認する。
機器のファームウェアバージョンを確認する。

(注¹⁰) 通信(SNMP)エラーの場合、パネル上には「No response from agent.」「---」が表示されます。テキストボックスへの設定の際の通信エラーは、(a)～(e)が表示されます。

(注¹¹) 「SNMP 設定」については、HP Open View ネットワークマネージャ・ユーザーガイド等をご参照ください。

- (c) 「Too big」
- ・意味： 生成されたメッセージが大きすぎる。
 - ・原因： MIB 情報が大きすぎるため取得/設定できない。
 - ・対処： 設定する情報のサイズなどに誤りがないか確認する。機器のファームウェアバージョンを確認する。
- (d) 「Bad value」
- ・意味・原因： 設定した MIB 情報に誤りがある。
 - ・対処： 設定情報のタイプ・長さなどに誤りがないかチェック。
- (e) 「General error」
- ・意味・原因： 上記(a)～(d)以外の理由で、MIB 情報を取得/設定できない。
 - ・対処： 機器のファームウェアバージョンを確認する。

<その他のエラー>

通信エラー以下のエラーメッセージは、標準出力に表示されます。

- (f) 「Memory error.」
- ・意味・原因： AT-View がメモリの確保に失敗した。
 - ・対処： 不要なプロセスを終了するなどして空きメモリを確保する。
- (g) 「Can't create <filename>。」 または 「Cannot create <filename>。」
- ・意味： AT-View が<filename>で示すテンポラリファイル生成に失敗した。
 - ・原因： ディスクの空き容量不足。<filename>の書き込みパーミッションがない。
 - ・対処： ディスクの空き容量を増やす。ディレクトリのパーミッションを変更し、<filename>を書き込み可能とする。
- (h) 「<filename> is not exist.」
「<filename> is invalid file.」
「Cannot open <filename>」
「Unspecified Pixmap: <filename>」
「No Dialog Directory」
「License error.」
- ・意味： <filename>で示すファイルがない。ファイル内容が正しくない。パーミッションがない。シリアル番号が正しくない。
 - ・原因： AT-View のインストールに失敗している。または、インストールされたファイルが変更・削除された。
 - ・対処： AT-View を再インストールする。(7.使用上の注意点(15)参照)
- (i) 「IP Address field not exist.」
「Custom Dialog Path field not exist.」

「 Custom Dialog file field not exist. 」
「 Fields are not exist. 」
「 OpenView initialize error. 」
「 MapInfo error. 」
「 Can't write OV database. 」 または 「 Cannot write OV database. 」
「 Can't open configuration. 」 または 「 Cannot open configuration. 」
「 Can't read community. 」 または 「 Cannot read community. 」
「 IP Address not set. 」
「 Custom Dialog Path not defined. 」
「 Custom Dialog file not defined. 」
「 Cannot Open OVS NMP Session for '<host>'. 」
「 Snmp Read Error. 」
「 Cannot Create PDU. 」
「 Cannot Add Var Bind 」

- ・ 意味： HP OpenView が持つ変数を参照できない。AT-View が OpenView をアクセスした際、エラーが発生した。
- ・ 原因： HP OpenView の持つデータベースが壊れた。または、HP OpenView の異常。
AT-View のインストールに失敗している。または、インストールされたファイルが変更・削除された。
- ・ 対処：
 - 1 HP OpenView を再起動する。
 - 2 HP OpenView のユーザーガイドに従い、「マップ自動生成の再起動」を行う。
 - 3 HP OpenView を再インストールする。
AT-View を再インストールする。(7.使用上の注意点(15)参照)

(4) パネルの自動実行

AT-View がサポートする弊社の機器であれば、「パネル登録」をしなくても、HP OpenView 上でアイコンを選択し、「パネル実行」を選択することにより、機器毎のパネルを表示することができます。

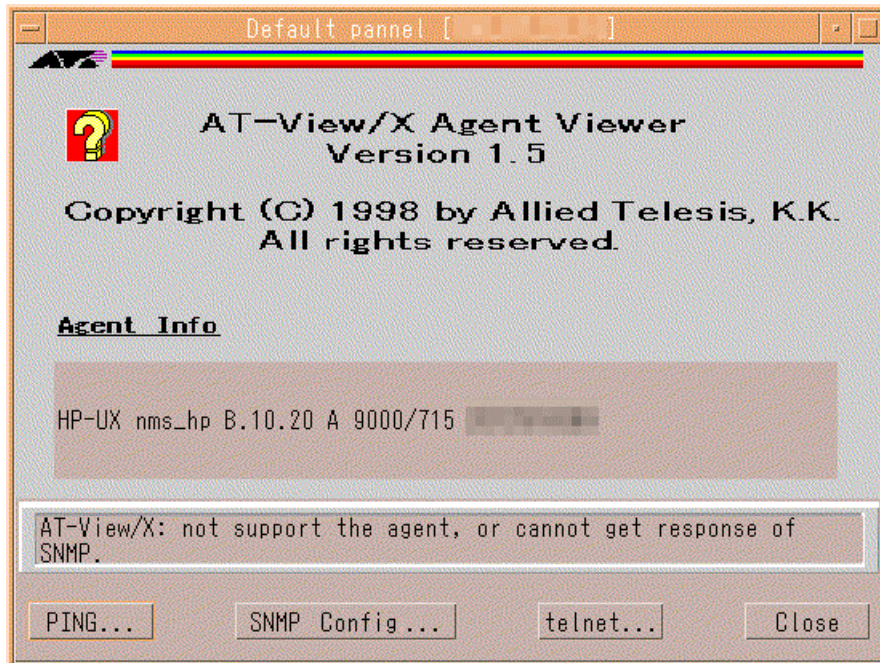
これは、選択したアイコンの sysObjectID に管理するパネルを対応づけることで実現しており、その対応は AT-View メニューの「自動選択設定」で確認することができます。(注¹²)

(注¹²) 「パネル登録」で登録したパネルは、「自動選択設定」で登録されているパネルに優先して起動されます。

ただし、「自動選択設定」で、この対応付けを修正・削除された場合、正常なパネルを開くことができなくなる可能性があります。修正・削除される場合は、インストールディレクトリ(注 9)/dialog/default.dls のバックアップを作成することを推奨します。また、回復できない場合は、再インストールをお願いします。
(7.使用上の注意点(15))

(5) デフォルト・パネル

AT-View は、パネル表示がうまく行かないときのトラブルシュートのため、下図の「デフォルト・パネル」を用意しています。



このパネルが表示された場合、以下の手順で、問題を切り分けることができます。

- (a) 「Agent Info:」に sysDescr が表示されている場合
AT-View 未サポート機種、または、default.dls ファイルが壊れている。
- (b) 「Agent Info:」に 「No response ~ 」が表示されている場合
「PING」 ボタンを押し、接続を確認。
- (c) (b)で、ping timeout の場合
エージェントと TCP/IP の通信ができない。
- (d) (b)で、 ping 応答ありの場合
「SNMP Config」 ボタンを押し、コミュニティ名を確認。
- (e) (d)で、 SNMP 設定が正しくない場合
HP OpenView でコミュニティ名を正しく設定する。(注 11)
または、「telnet」 ボタンで機器の設定を変更する。
- (f) (d)で、SNMP 設定が正しい場合
上記以外の理由。(通常は、あり得ない。)

(6) 環境依存部分のカスタマイズ(ping,telnet,web ボタンが動作しない場合)

AT-View では、シェルスクリプトから間接的に以下のコマンドを呼び出すことで、その機能を実現しています。

これらは、お客様のご使用環境に依存するため、正しく動作しない場合があります。その場合は、テキスト・エディタで、各シェルスクリプトをご使用環境に合わせて、カスタマイズしてください。

ping コマンド(ターミナル画面を表示し、指定されたホストへの PING を実行する。):

インストールディレクトリ(注 9)/dialog/atkk.sh/ping.sh

telnet コマンド(ターミナル画面を表示し、指定されたホストへの TELNET を実行する。):

インストールディレクトリ(注 9)/dialog/atkk.sh/telnet.sh

web コマンド(Web ブラウザーを起動し、指定されたホストと接続する。):

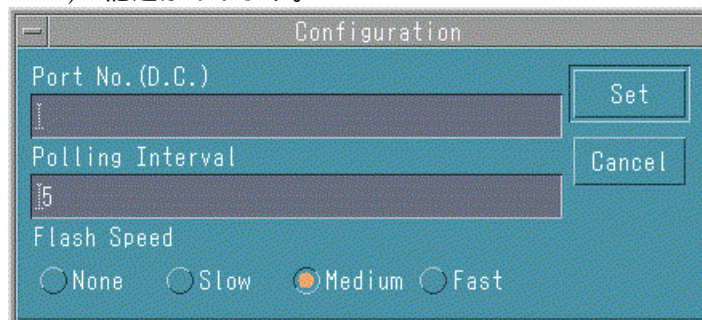
インストールディレクトリ(注 9)/dialog/atkk.sh/web.sh

(7) SNMP Trap について

機器が送信する SNMP Trap は、HP OpenView での処理をそのまま用い、AT-View では処理しません。

(8) 表示設定変更

パネル上の「Config...」や「UNIT ID...」のボタンを押すことにより、Configuration パネルが開き、パネルの表示単位(ポート番号毎、スタック時のユニット毎等)や、SNMP 監視のポーリング間隔、点滅部品の変速速度変更が可能です。上記 3 種類の中で、設定変更ができない項目に関しては、パネル上「(D.C.)」(Don't care.)の記述があります。



(9) 通信エラー表示

通信エラーは、AT-View メニューから「通信エラー表示」を選択することにより開くパネル上に表示されます。

また、エラーは、AT-View が終了した時点で(AT-View で監視しているパネルを全て閉じた時)最新の最大 1000 行分がログに収集されます。ログは、「/tmp/mewerr.<ユーザ名>.<端末 ID>」というファイルに記録されます。(注¹³)

(10)モジュール・インストール

AT-View メニューの「インストール」で、新たにサポートする機種に対応したモジュール(ファイル名:*.dlc)を、ロードすることにより新機種の管理をすることができますようになります。

ただし、現在当機能で新機種対応モジュールを提供する予定はありません。

(11)テキストボックスへの設定に関する制限

AT-View は、パネル上でテキストボックスに値を設定する際、値の形式を誤って入力してもエラーを検出せず機器に対し次のように形式を変換し、SNMP Set を送信します。

(a) IP Address 形式(x.x.x.x)のボックス

形式を誤って入力すると、「0.0.0.0」と変換して設定される。

例えば、Manager Address で IP アドレスの形式を誤って「190.200.1」(一桁足りない)と設定すると、機器にアドレスとして「0.0.0.0」と変換されて設定されます。

(b) 16 進数(0-9,A-F,a-f)形式のボックス

形式を誤って入力すると、ASCII コードまたは SJIS コードに変換して設定される。

例えば、「abxy」は、0x61627879 として設定されます。

(12)テーブル形式の情報に関する制限

AT-View は、VLAN、RMON などの情報量が可変のテーブル形式データ・エントリを追加することができません。VLAN、RMON などについては、RS-232C コンソールまたは telnet や RMON モニタなどでデータを追加してください。

(注¹³) 当ログファイルをコピーするなどして使用する場合は、通信エラー・パネルを閉じた状態で行ってください。また、AT-View が通信エラーを検出しつづけると、当ログファイルの容量は制限なく増えつづけます。監視の必要がない場合は AT-View のパネルを全て閉じて下さい。

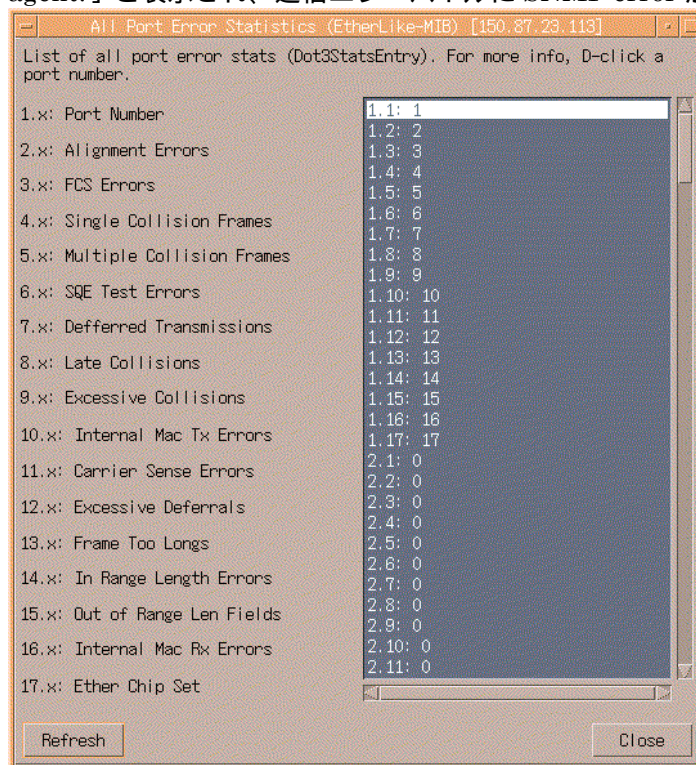
また、テーブル形式のデータを表示する場合、リストボックス形式表示では、最大 1,024 行、表形式表示では、最大 256 行が表示の限界です。

(13) リストボックス形式のパネルでのダブル・クリックに関する制限

Agent Viewer では、リストボックス形式のパネル上で一覧の特定のインデックスをダブルクリックすることによりその詳細を表示する事ができるものがあります。

例えば、下図では、詳細を見たいポート番号のある欄をダブルクリックする(例えば、ポート 2 を選びたいときは、1.2: 2 の欄をダブルクリックする)ことにより、そのポートのエラー情報の詳細が見ることができます。このとき、指示のあるインデックスと関係ない欄(下図では、2.1: 0 は、Alignment Errors であり、port number でないため無効)はダブルクリックしないようにお願いします。

ダブルクリックすることは可能ですが、その場合開くパネルには該当する MIB 情報がない(上記では、0 番ポートの情報がない)ため、「No response from agent.」と表示され、通信エラーパネルに SNMP error が現れます。



(14) 管理機器のプライベート MIB について

管理対象の機器のプライベート MIB を CD-ROM 内の以下の場所に登録してあります。また、追加分は追加モジュールの中に含まれます。追加モジュールのダウンロード展開については、「3.インストール手順」をご参照願います。

・ディレクトリ：ATKKMIB/

機器とプライベート MIB ファイルの対応は、以下の通りです。

- ・ CentreCOM 3600 シリーズ、
AT-TS HUB シリーズ、 CentreCOM RH609 ATHUB.MIB
- ・ CentreCOM FH612TX シリーズ: FH612TX.MIB
- ・ CentreCOM 8518SX/LX、 9108SX/LX : ATKKEXT.MIB
- ・ CentreCOM 3716TR、 CentreCOM 3716TRplus : NV_ATKK.MIB
- ・ CentreCOM 3690TR : ATSWITCH.MIB
 ATBRG.MIB
- ・ CentreCOM 8116 : ATKKNB.MIB
 ATKKNBSW.MIB

(15)再インストールについて

AT-View のファイルが一部壊れたなどで再インストールする場合は、一度アンインストールをしてからインストールすることをお勧めします。

アンインストールせずにインストールした場合は、ファイルを上書きしますが、「mkdir ができない」などのエラーメッセージが表示されることがあります。

(16)AT-View/J-HPOV-45 との併用についての注意点

AT-View/X と弊社の AT-View/J-HPOV-45(以降 AT-View/J)は、併用可能です。ただし、両方をアンインストールしても、HP OpenView/NNM のベンダー情報 (oid_to_type)をインストール前の状態に復元できない場合があります。

これは、HP OpenView/NNM 使用上問題とはなりません、お客様の必要に応じてテキストエディタ等で消去されるようお願いいたします。

また、AT-View/J, AT-View/X が共にインストールされている状態で、AT-View/X のみをアンインストールする場合は、問い合わせ「Do you wish to perform this recovery? [y|n]」に対し、「n」と応答願います。これに「y」で答えると、AT-View/J による CentreCOM 3600 シリーズハブの監視ができなくなります。

その他の情報につきましては添付の README.TXT ファイル(SJIS)をご覧ください。

8.おことわり

当社は予告なく、本書の全体又は一部を修正・改訂することがあります。また、改良のため製品の仕様を予告なく変更することがあります。

以上

9.ユーザーサポート

障害回避などのユーザーサポートは、このマニュアルの「調査依頼書」を（拡大）コピーしたものに必要事項を記入し、下記のサポート先に FAX してください。記入内容の詳細は、『調査依頼書のご記入にあたって』を参照してください。

アライドテレシス（株） サポートセンター

Tel: 0120-860-772 月～金曜日まで（祝・祭日を除く）
10:00 ~ 12:00、13:00 ~ 17:00

Fax: 0120-860-662 年中無休 24 時間受付け

10.調査依頼のご記入にあたって

本依頼書は、お客様の環境で発生した様々な障害の原因を突き止めるためにご記入頂くものです。ご提供頂く情報が不十分な場合には、障害の原因を突き止めることに時間がかかり、最悪の場合には障害の解消ができない場合も有ります。迅速に障害の解消を行うためにも、弊社の担当者が障害の発生した環境を理解できるよう、以下の点にそってご記入頂きFAXにてお送りください。記入用紙で書き切れない場合には、プリントアウトなどを別途添付ください。なお、都合によりご連絡の遅れることもございますのであらかじめご了承ください。

● 使用しているハードウェア、ソフトウェアについて

- * ソフトウェアバージョンを記入してください。

<ソフトウェアバージョンの確認方法>

HP OpenView の「ヘルプ (H)」メニューから「OpenView について(A)」を選択します。

「OpenView」のパネル「アプリケーション…」ボタンを押します。

「アプリケーション：」欄の「CentreNet AT-View/X-HPOV-45」を選択します。

「バージョン：」にバージョン（1.0 pl.0 などのように）が表示されます。

- * 製品名、製品のシリアル番号(S/N)を調査依頼書に記入してください。製品のシリアル番号製品に添付されているシリアル番号・認証キーシールに記入されています。

● お問い合わせ内容について

- * どのような症状が発生するのか、それはどのような状況で発生するのかを出来る限り具体的に（再現できるように）記入してください。
- * エラーメッセージやエラーコードが表示される場合には、表示されるメッセージの内容や画面のプリントアウトなどを添付してください。

● ネットワーク構成について

- * ネットワークとの接続状況や、使用されているネットワーク機器がわかる簡単な図を添付してください。
- * ご使用の CentreCOM 各シリーズの機種名、バージョンなどをご記入ください。
- * 他社の製品をご使用の場合は、メーカー名、機種名、バージョンなどをご記入ください。

